

## 「聴こえくつきり事業」について

## 1 目的

山形市が目指す健康医療先進都市の確立に向けて、ヒアリングフレイル<sup>※</sup>の予防並びに早期発見・早期対応を行うことにより「聴こえ」の状態を改善し、人とのコミュニケーションや社会活動への参加を促進することで、高齢者の社会的孤立を防ぐとともに、介護予防や認知症予防、ひいては健康寿命の延伸につなげることを目的に総合的なヒアリングフレイル対策を実施。

※ヒアリングフレイルとは、聞き取る機能の衰えのこと

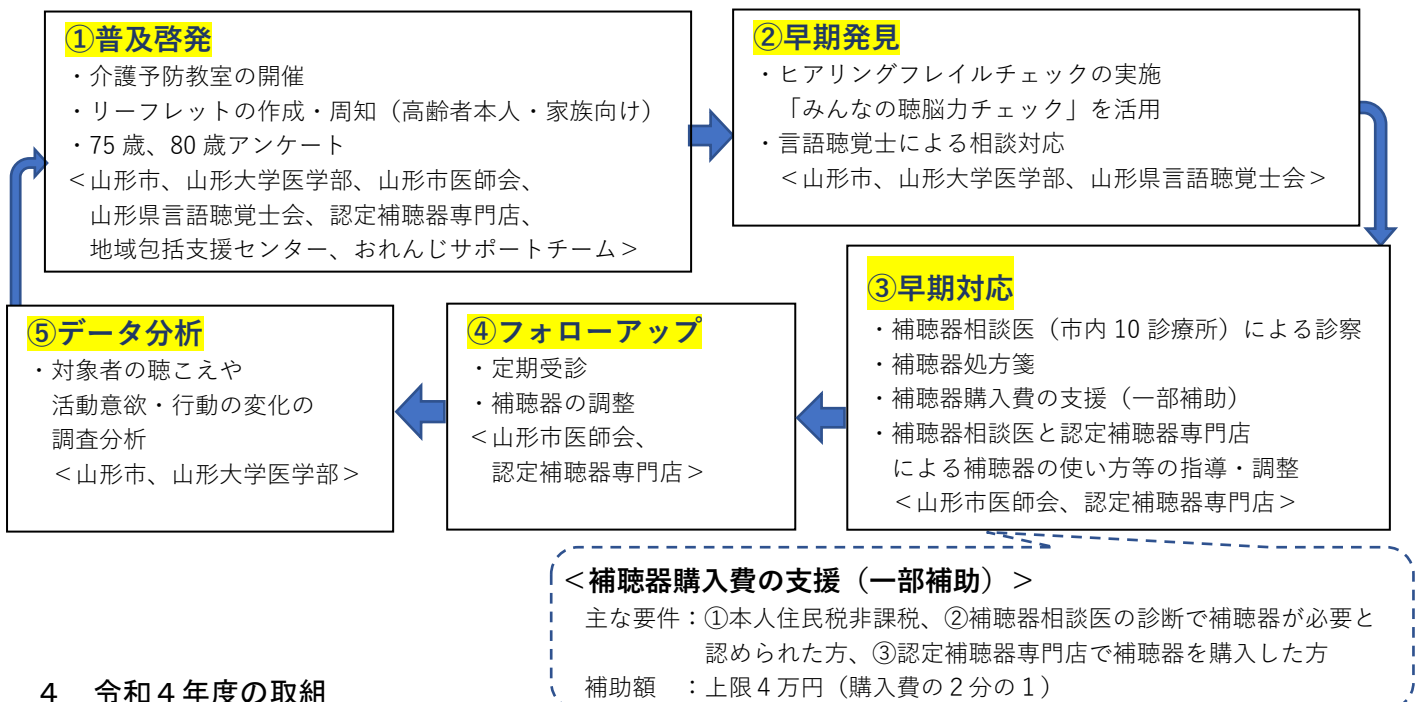
## 2 取組の背景

- (1) 国内外の研究によって、難聴が認知症発症の最大のリスク要因になることが明らかになっている。(世界で最も評価が高い医学雑誌 Lancet2020 改訂より)
- (2) 難聴の有病率が65歳から急激に増加し、75歳を過ぎると約7割の方が難聴とされている。(国立長寿医療研究センターホームページより NILS-LSA 第6次調査(2008-2010))
- (3) 山形市で毎年度行っている75歳・80歳アンケートの結果

質問項目	75歳	80歳
コロナ禍前と比べて、もの忘れが気になる	16.3%	22.0%
聞き返すことがよくある	26.3%	38.1%
数人の会話でうまく聞き取れない	21.4%	31.4%

## 3 事業概要

- (1) ①普及啓発、②早期発見、③早期対応、④フォローアップ、⑤データ分析という5つの要素をパッケージ化した好循環による事業
- (2) 医・産・学・官が協働する取組



## 4 令和4年度の取組

## (1) 普及啓発

①介護予防教室：補聴器相談医、言語聴覚士、認定補聴器技能者による講話、補聴器の展示

【12/1 参加者：44名(うち、チェックに参加した者 19名)】

②リーフレットの配布：6,500部(日本聴覚医学会・山形大学等主催の10/5市民公開講座など)

## (2) 早期発見

ヒアリングフレイルチェック参加者 85 名(12/8 北部公民館:39 名、12/13 霞城公民館:46 名)

- ・アプリ「みんなの聴脳力チェック」を使用した語音聴力チェック
- ・語音聴取率 60%未満の方等に対し、言語聴覚士による個別相談を実施

### 【チェックの結果】

語音聴取率	人数	割合
80~100%	21	59%
60~80%	29	
40~59%	29	41%
20~39%	3	
0~19%	3	
計	85	85



※ 語音聴取率 60%未満 35 名を含め 43 人に対し、言語聴覚士が個別相談を実施。

## (3) 早期対応

①補聴器相談医への受診を勧めた 35 名の内、受診した者 28 名 (80%) (令和 5 年 5 月末時点)

- ・補聴器の処方箋発行 14 名
- ・補聴器使用を希望しない者 12 名
- ・その他 (既に所持、再度受診者) 2 名

②補聴器購入者 7 名 (令和 5 年 5 月末時点)

【内訳：補助金活用 4 名、自費購入 2 名、障がい者総合支援法による給付 1 名】

## (4) 参加者の声

- ・聴こえの状態を知る機会がなかったので良かった。
- ・聴こえに関することは相談する機会がなく、誰にも言えなかった。
- ・思ったより聴こえていなくてショックだったが、早いうちに知れて良かった。
- ・補聴器は周りが購入を勧めても本人が意欲的でなければ意味がないため、良い機会だった。
- ・多くの高齢者に耳からの健康講座を聞いて欲しい。

## 5 実施結果を受けた主な課題と対応

(1) ヒアリングフレイルや補聴器使用についての正しい理解の促進

対応：介護予防教室の拡大。東北芸術工科大学と連携し、分かりやすいリーフレットを作成。

(2) ヒアリングフレイルチェック後の受診率の向上

対応：チェック当日の言語聴覚士による個別相談体制の充実。郵送による再度の受診勧奨。

## 6 令和 5 年度の取組とスケジュール

上記課題に対応しながら、引き続き総合的なヒアリングフレイル対策を実施するとともに、事業効果を検証し、令和 6 年度以降の本格実施に繋げていく。

取組	時期	内容等
介護予防教室の開催	6 月	「耳からの健康講座」 2 会場 計 100 人
ヒアリングフレイルチェック	6～8 月	元木公民館等全 6 か所、計 200 人
フォローアップ	7 月～	認定補聴器専門店による補聴器調整、補聴器相談医定期受診
啓発リーフレット作成	12 月完成	東北芸術工科大学との連携による作成
補聴器購入費補助	通年	対象者の要件等は令和 4 年度と同じ
アンケート・データ分析	通年	山形大学医学部との協働によるデータ分析
事業効果検証・次年度事業検討	随時	協働機関との検討会